

小学校 第4学年 道徳科 学習指導案

東京都板橋区立北野小学校
主任教諭 山中 麻衣

主題名 いじめをゆるさない心

教材名 7 プロレスごっこ(1時間)

内容項目 C 公正、公平、社会主義

本時のねらい えみの行動とクラスの変化について話し合うことをとおして、誰に対しても差別したり、偏見をもったりすることなく、公正・公平に接しようとする判断力を育てる。

指導時期 6月ごろ

「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

休み時間にクラスで起こる可能性があることを題材にした教材である。

「導入」では、まず、児童に休み時間の過ごし方について問い、本時の授業につなげていけるようにする。クラスの実態に応じて配慮が必要な場合は、気をつけて問うようにしていきたい。

「展開」では、範読を聞きながら、「教材に出てくるクラスの問題点」について考え、教科書の本文の問題点だと考えるところに線を引くように指示をする。そして、学習支援ソフトウェアを使って、それらを電子黒板などに映し、どの場面やどの言葉がいじめだと考えるのか、一人一人の考えを全体で共有できるようにしていく。



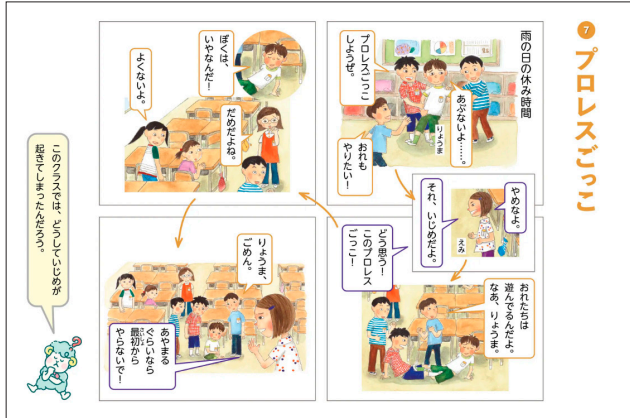
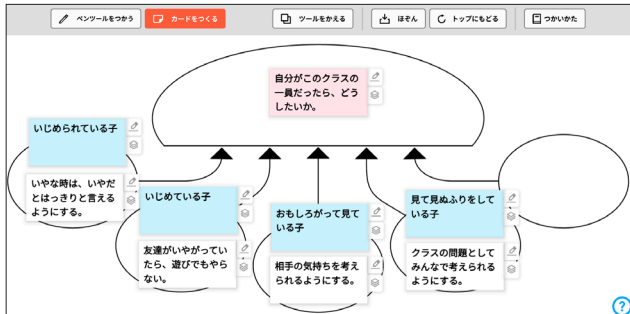
また、「どうしていじめが起きてしまったのか」を考える際、「考えるシート」を活用し、内容を視覚的に振り返りながら、考えられるようにしていく。


そして、いじめと遊びの違いを考えさせ、「いじめが起きないようにするためには、どのようにすればよいのか」について、教科書 p.38「いじめの四層構造」にふれながら、「指導者用デジタル教材」の「思考ツール」にある「クラゲチャート」を活用して考える。さまざまな立場から「自分だったらどうするのか」を一人一人に考えさせる。多面的・多角的にいじめについて捉えられるようにしていくことで、クラスでのいじめについて当事者意識をもって考えていくことができるのではないかと考える。

「終末」では、「自分のクラスでは、どのようなクラスを目標にしたいか」について、「さし絵・写真」を活用しながら振り返ることができるようにしていく。

本時の展開

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 ● 休み時間にどのようにして過ごしているか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ◎：校庭で遊んでいる。 ◎：教室で友達とお話をしている。 ● 登場人物の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 p.33にある「まなびリンク」(二次元コード)から「教材の解説」を開き、登場人物についてふれる。

	活動内容	デジタル教材の活用
導入		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 範読を聞きながら、クラスの問題点はどこかを考えながら、線を引く。 ● 「指導者用デジタル教材」の紙面を電子黒板などに映し、児童が線を引いた箇所を全体で見ることができるようし、このクラスの問題点について話し合うようにしていく。 <ul style="list-style-type: none"> ◎：遊びと書いていても嫌な気持ちをもっている人もいる。 ◎：周りで見ている人でも、何も言わない人もいる。 ◎：何が起きているのか、気づいていない人もいる。 ■：このクラスでは、どうしていじめが起きてしまったのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ◎：遊びだと思っていたけれど、それは遊びではなかったから。 ◎：周りで見っていた人も注意をする人がいなかったから。 ◎：遊びでも相手が嫌がっていたらいじめだということに気がつかなかったから。 ● 自分がこのクラスの一員だったらどうしたいか、「クラゲチャート」にまとめる。（「いじめの四層構造」を見ながら、それぞれの立場から考えられるようにする。） <ul style="list-style-type: none"> ◎：嫌なときは、嫌だとはっきりと言えるようにする。 ◎：友達が嫌がっていたら、遊んでいてもやらないようにする。 ◎：相手の気持ち（やられている人）を考えるようにする。 ◎：クラスの問題として、自分もみんなと一緒に関わるようにする。 	 <ul style="list-style-type: none"> ● いじめと遊びの違いについて、全体で確認をする。 ● 教科書p.38の「いじめの四層構造」についてもふれる。 ● 「考えるシート」を提示し、内容を振り返りながら、もう一度考えられるようにする。  

	活動内容	デジタル教材の活用
終末	<p>T：自分のクラスでは、どのようなクラスを目指したいですか。</p> <p>C：困っている人には、積極的に声をかけたい。</p> <p>C：誰にでも優しいクラス。</p> <p>C：だめなことをだめと言えるクラス。</p>	<p>●「指導者用デジタル教材」p.39の「さし絵・写真」を提示し、それぞれの意見を見ながら、考えるようにする。</p> 

「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

- 範読では、児童が問題点だと思うところについて、一人一人が線を引く活動を行った。それらを全体で確認することで、児童それぞれが考える問題点がさまざまであることを捉えることができた。自分にとっては問題だと思わない箇所でも、他の人にとっては、問題だと考えられるような場面もあり、一人一人がいじめについて気づき、考えることができた。
- 「考えるシート」を活用することで、教材の内容を視覚的に捉えることができた。登場人物や内容だけでなく、場面の移り変わりが書かれていることで、どの児童にとっても理解しやすく、その後の授業の一助となった。
- 「クラゲチャート」を活用し、「いじめの四層構造」にふれながら、自分がどの立場であっても考えられるようにしたことで、見方や考え方が広がったように感じた。どのような立場や場面でもいじめが起こりうることを、児童がさまざまな視点で考えることができた。